

令和7年2月25日

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	新宿区立西戸山幼稚園
所在地	新宿区百人町4-7-1

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な自然

<テーマの設定理由>

AI化など変化が激しい予測困難時代を生きる子どもたちが心豊かに生きていくためには幼児期から身近な自然に関わり興味関心を深めることが大切である。自然との触れ合いの中で幼児の学びの可能性を探り、一人一人の成長につなげたい。

2. 活動スケジュール

週一回程度／令和6年度7月から令和8年度3月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 園庭の生き物との出会い、飼育活動：飼育ケース、観察ケース、ゲージ、虫がくる植物を植える、餌、網、ポンプ、ヒーター、聴診器、虫眼鏡、タブレット端末、トレイルカメラ、ネット等
- 園庭にくる鳥の観察：果物の設置、写真屋さんの協力による撮影、タブレット端末、プロジェクター、写真掲示等
- 池の生き物の観察：トンボ池の設置、水中眼鏡、網、餌等
- 栽培活動：苗、種、土、プランター、ブルーシート、スコップ、シャベル、支柱、ネット等
- 種まきしない花壇（不思議探究）：土、花壇、ジョウロ等
- 腐葉土作り：幼児用熊手、落ち葉用ちり取り、黒いビニール袋、ダストボックス等
- 観察、調べる等：絵本、図鑑、マクロレンズ、実物投影機やプロジェクターでの学級での共有等
- 描画・身体表現活動：画用紙、絵具、ペン、のり、ハサミ、輪ゴム等
- 砂場、園庭の整備：スコップ、砂場用遊具、ネット等
- 雨水タンクの活用：トライ、ジョウロ等

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

身近な自然を五感で味わうこと、自然の中のつながりや私たちと自然とのつながり（多様性、循環性、有限性、相互性）を意識した環境や活動の工夫、援助を行ってきた。様々な自然との暮らしの中で幼児が心動かされたことや疑問に思ったことといった次々に生まれる問いを保育者や他児と共有したり、一緒に考えたり調べたり試したりして探究した。

- ・園庭探検、虫探し、バードウォッチング
- ・池にいるオタマジャクシとの関わり
- ・雨水タンクの水を使った水遣り
- ・腐葉土作り
- ・花や夏野菜や冬野菜の土づくり、栽培活動
- ・モルモットの飼育
- ・虫（アゲハチョウ、ヤゴ、バッタ、カマキリ、カブトムシ、カメムシ、ミミズ、ヤモリ、カエル等）の飼育
- ・自由に種まきして良いプランター
- ・種まきしない花壇
- ・ドングリで遊ぼう
- ・自然物の色水遊び
- ・描画や身体表現活動
- ・氷作り
- ・石や雨、水たまり、砂、土を使った遊び
- ・園庭にやってくる小動物との関わり 等の様々な出会いや探究活動

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

幼児たちは、五感を働かせ自然と関わり、感じたことを言葉にして保育者や友達と共有している。一人の幼児の問いが数名の幼児のものとなったり学級のものとなったりして、考えを伝え合ったり、一緒に調べたり、お家の人と考えたりしている。保育者は知っている知識や正解を知らせるのではなく、幼児の考えを引き出せるようにしている。話し合いの時間を設けたり、保育室周辺の絵本棚の絵本や図鑑を精選して設置したり、実物投影機やマクロレンズ、タブレット端末の写真などを活用したり、飼育ケースや袋等の必要な道具がすぐに使えよう整えたりして、幼児が考えたり、試したり、共有したり、調べたりできるように環境を整える援助を行っている。

<活動の様子>



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

- 幼児の問いには学びがあるということに気付いた。幼児の問いを大切に扱い、丁寧に向き合おうとする保育者の姿勢が、幼児の園生活の中での学びを深め、次々と問いが生まれ、広がったりつながったりしていく。
- 話し合いのゴールを意識しないということが大切であると分かった。保育者主導の話し合いにならないようにする。多様な考え、自分や友達の気持ち、保護者や専門家の意見などに出会えるようにし、より深く広く考えられる幼児の育成につなげたい。幼児の思いや気付きを大切にし、もっとやってみたい、次はこうしたいというわくわくが生まれる環境づくりに努めたい。

以上